

事業コード	0040101	政策コード	02	政策名	県民総参加による環境保全対策の推進						
事業名	第2期八郎湖水質保全対策推進事業	施策コード	01	施策名	環境保全と循環型・低炭素社会の形成						
		指標コード	04	施策目標(指標)名	三大湖沼の水質保全対策の推進						
部局名	生活環境部	課室名	環境管理課八郎湖環境対策室	班名	企画・計画推進班	(tel)	1631	担当課長名	柴田 理	担当者名	松岡紳二郎

評価対象事業の内容

<p>1-1. 事業実施の背景(施策目標の達成のためになぜこの事業が必要であったのか) 八郎湖の長期ビジョンの達成に向け、第1期計画では、生活排水、工場・事業場排水、農地からの濁水などの発生源に係る負荷の削減対策を実施し、一定の効果が見られた。更に、八郎湖の一層の水質改善を図るため、平成30年度までの対策を盛り込んだ「八郎湖に係る第2期湖沼水質保全計画」を策定し、下水道等の接続率の向上や、環境保全型農業等の発生源対策を継続実施するとともに、新たにより実効性の高い対策を検討する必要があった。そのため、第2期八郎湖水質保全対策推進事業では、アオコの常時監視システムの整備や湖内浄化対策のほか、水質解析モデルを用いて新たな水質保全対策の効果を検討した。</p> <p>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上又は完了後に明らかになった問題点 第1期計画から第2期計画へ移行し、第2期八郎湖水質保全対策推進事業では、アオコの常時監視システムの有効性(発生状況のいち早い把握、迅速かつ適切な対応等)を確認することが出来た。また、八郎湖の水質浄化のための新たな湖内浄化対策を実施するとともに、水質解析モデルを用いたシミュレーションを行い、より効果的・経済的な対策についての有効性及び問題点等を明らかにすることが出来た。更に、水質解析モデルによる対策効果検討の結果、平成27年度以降の大久保湾における流動化対策検討事業へ繋がる知見・問題点の認識が得られた。</p> <p>2. 住民満足度の状況(事業終了後に把握したもの) 満足度を把握した対象 受益者 一般県民(時期: H27年 05月) 満足度の把握方法 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット その他の手法 (具体的に 県議会、市町村、市町村議会、住民からの要望) 満足度の状況 県議会や流域市町村長等から、湖沼水質保全計画での対策を今後も着実に進めるとともに、更なる湖内浄化対策の実施等について要望されている。また、流域の住民からアオコ対策等を求められている。</p> <p>3. 事業目的(どういう状態にしたかったのか) 「八郎湖に係る湖沼水質保全計画(第2期)」に掲げた対策を実施する中で、第2期八郎湖水質保全対策推進事業では、アオコ常時監視システムの整備や新たな湖内浄化対策の実施のほか、より実効性の高い対策を検討し、八郎湖長期ビジョンの達成に向けた新たな知見・問題点の認識を得ることを目的とした。</p> <p>4. 目的達成のための方法 事業の実施主体 県 事業の対象者・団体 八郎湖流域の住民、市町村、事業者など 達成のための手段 第2期湖沼水質保全計画に基づき、アオコの常時監視システムの整備や湖内浄化対策などを行うほか、水質解析モデルを用いて新たな水質保全対策の効果を検討する。</p>	<p>5. 前回評価における指摘事項等</p> <p>指摘事項</p> <p>指摘事項への対応</p> <p>6. 事業の内容 事業概要及び推進状況 アオコ常時監視システムの整備(八郎湖岸の主要地点5箇所に監視カメラを設置し、県庁八郎湖環境対策室において監視モニターにより常時監視を実施した。) 方上地区Caもみ殻炭によるりん回収(Caもみ殻炭を活用し、八郎湖の富栄養化の要因となっている大潟村方上地区のりん含有水からりんを回収する実証実験を行った。) 湖辺植生回復環境整備(児童が安心して環境学習や植生回復を進めるための消波工周辺で雑木除去などの環境整備を実施した。) 水質解析モデルによる対策効果検討(八郎湖の水質解析モデルを構築し、シミュレーション等により実効的な対策の検討を行った。)</p>																																									
<p align="right">事業年度 平成26年度 ~ 平成26年度</p>																																										
<p align="right">単位(千円)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">事業費等</th> <th>当初計画事業費</th> <th>最終事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>内 訳</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>第2期八郎湖水質保全対策推進事業</td> <td align="right">21,012</td> <td align="right">20,374</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>事業費計</td> <td align="right">21,012</td> <td align="right">20,374</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">財源内訳</td> <td>国庫補助金</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>県 債</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>そ の 他</td> <td align="right">6,027</td> <td align="right">5,684</td> </tr> <tr> <td>一 般 財 源</td> <td align="right">14,985</td> <td align="right">14,690</td> </tr> </tbody> </table>		事業費等		当初計画事業費	最終事業費		内 訳				第2期八郎湖水質保全対策推進事業	21,012	20,374														事業費計	21,012	20,374	財源内訳	国庫補助金			県 債			そ の 他	6,027	5,684	一 般 財 源	14,985	14,690
事業費等		当初計画事業費	最終事業費																																							
	内 訳																																									
	第2期八郎湖水質保全対策推進事業	21,012	20,374																																							
	事業費計	21,012	20,374																																							
財源内訳	国庫補助金																																									
	県 債																																									
	そ の 他	6,027	5,684																																							
	一 般 財 源	14,985	14,690																																							
<p align="center">当初計画及び最終の事業費比較</p> <p align="right">最終事業費 / 当初計画事業費 =(0.97)</p>																																										

7. 事業の効果及び課題の改善状況
 アオコ常時監視システムの整備により、1日を通してアオコ発生状況の変化を把握することが可能となるとともに、同時に複数地点の発生状況を把握することが可能になった。また、現地での目視調査に比べ広範囲にわたる監視が可能になるとともに、録画データにより発生状況を後日確認・比較することが可能となった。方上地区Caもみ殻炭によるりん回収実証試験により、湧出水からのりん除去対策に関する知見が得られた。湖辺植生回復環境整備により、植生回復による水質浄化、児童による環境学習による意識啓発及び人材育成等がなされた。水質解析モデルを用いた対策効果検討により、新たな水質保全対策の検討に関する知見が得られた。

8. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み

指標名	八郎湖(湖心)のCOD(75%値)								指標の種類
指標式	八郎湖(湖心)のCOD(75%値)								成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	全体	
目標a			9.7	9.6	9.4	9	8.6		
実績b			7	7	9.2	7	7.2		
a/b			138.6%	137.1%	102.2%	128.6%	119.4%		
データ等の出典	公共用水域水質測定結果								
把握する時期	当該年度中		月	翌年度	06月	翌々年度	月		

指標名									指標の種類
指標式									成果指標 業績指標
年度別の目標値(見込まれる効果) 低減目標指標 該当 非該当									
指標	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	全体	
目標a									
実績b									
a/b									
データ等の出典									
把握する時期	当該年度中		月	翌年度	月	翌々年度	月		

指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法
 指標を設定することが出来なかった理由
 成果(見込まれる効果)

所管課の評価				評価結果	
有効性の観点	住民満足度の状況	a	b	c	A B C
	【b又はcの場合の分析】				
	事業の効果	適用の可否 可 不可			
	a 達成率100%以上	b 達成率80%以上100%未満	c 達成率80%未満		
	【b又はcの場合の理由】				
効率的性の観点	事業の経済性の妥当性	適用の可否 可 不可			評価結果 A 1.0~ B 0.8~ 1.0 C ~0.8
	a 1.0~	b 0.8~1.0	c ~0.8		
	$\left[\frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{事業終了後の効果}} \right] / \left[\frac{\text{最終事業費}}{\text{当初計画事業費}} \right] =$ 【評価への適用不可、又はb、cの場合の理由】				
総合評価	A(妥当性が高い) B(概ね妥当である) C(妥当性が低い)				
	平成19年に全国11番目となる「指定湖沼」の指定を受け、20年3月に第1期湖沼水質保全計画を策定し、同計画に基づき、各種水質保全対策を進めてきた。八郎湖の水質は、平成18年度のCOD年間平均値が全国180湖沼中、ワースト3位となった後、21年度には全国ワースト15位まで改善したが、24年度はアオコの発生等によりCOD年間平均値が上昇し全国ワースト4位となるなど、依然として水質環境基準の達成が確保されない状況が続いている。25、26年度は気象条件等によりアオコの発生は抑えられたが、今後も継続的かつ実効性のある対策を進める必要がある。				
評価結果の類似事業への反映状況等(対応方針)					
政策評価委員会意見					

終了事業事後評価判定点検表

(様式5-1)

(1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度等の状況	a 住民満足度等を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点) B:有効性はある (1~3点) C:有効性は低い (0点)	
		b 住民満足度等を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が高くない	1				
		c 住民満足度等を把握していない	0				
	二 事業目的の達成状況	a 目標値に対する達成率が全て100%以上	2	2			
		b a、c 以外の場合	1				
		c 目標値に対する達成率のいずれかが80%未満	0				
計			4	4		A	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	a 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値(注)が全て1.0以上	2	2		A:効率性は高い (2点) B:効率性はある (1点) C:効率性は低い (0点)	
		b a、c 以外の場合	1				
		c 当初計画時と事業終了後の事業効果を比較した値のいずれかが0.8未満	0				
	計			2	2		A

(注) 事業経済性の算定式

$$\left(\frac{\text{当初計画時の効果}}{\text{事業終了後の効果}} \right) / \left(\frac{\text{最終事業費}}{\text{当初計画事業費}} \right)$$

上式で、効果とは事業の効果を把握するために設定した指標の実績値をいう。なお累積の実績値を設定している場合は、前年度からの差し引きによる「単年度増加分」を実績値として用います。

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A	
B (概ね妥当である)	総合評価結果が「A」又は「C」以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		